

震災復興とMLA

2011.06.08

第3回知デジ研「震災とデジタルアーカイブ」

水谷長志

東京国立近代美術館



緊急討議

東日本大震災 被災支援とMLAK ーいまわたしたちにできることは

日時 2011年4月23日(土) 13:00 - 14:30

場所 学習院大学(目白) 南3号館203教室

協力(確定順)

日本アーカイブズ学会、アート・ドキュメンテーション学会、情報知識学会、日本ミュージアム・マネジメント学会、大学図書館問題研究会、情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会(CH研究会)、Code4Lib JAPAN、日本図書館研究会、日本図書館協会、全国学校図書館協議会、図書館総合展運営委員会、日本博物館協会、ヤングアダルト・サービス研究会、図書館問題研究会、図書館海援隊、図書館海援隊サッカー一部、公民館海援隊、図書館友の会全国連絡会、漢字文献情報処理研究会、全日本博物館学会、日本教育大学協会 学校図書館部門、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 調査・研究委員会



90分のプログラム

<http://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:K:イベント/20110423>

13:00 開会

- | | | |
|-----|--------------------------------|--------------------------------|
| 発言1 | MLAKの展開 | 岡本 真(ARG) |
| 発言2 | Mからの報告 | 山村真紀(ミュージアム・サービス研究所) |
| 発言3 | Lからの報告 | 常世田良(日本図書館協会事務局次長) |
| 発言4 | Aからの報告 | 青木 睦(国文学研究資料館研究部准教授) |
| 発言5 | Kからの報告 | 神代 浩(国立教育政策研究所
教育研究情報センター長) |
| 発言6 | 文化財レスキューから 栗原祐司(文化庁文化財部美術学芸課長) | |

14:30 閉会

司会 水谷長志(東京国立近代美術館情報資料室長)

各発言8分程度、その後、フロアを交えて自由討議

※以下、発言2「Mからの報告」(山村さん)から抜粋
他発表者のほぼ全ての関係ファイルは上記アドレスに掲載

savemuseumからsaveMLAKへ

2011/3/11 東日本大震災

3/12 savelibrary開設

savemuseum開設

3/13 savearchives 開設

3/16 MLAスカイプ会議

savekominkan開設

4/4 第1回Meet Up →「saveMLAK」へ

4/11 プレスリリース saveMLAK始動

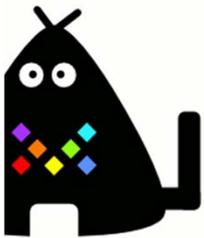
4/19 第2回saveMLAK Meet Up

4/23 緊急討議「東日本大震災

被災支援とMLAKーいまわたしたちにできることは」

4/24 第1回saveMALKうきうきウィキ祭り

saveMLAK

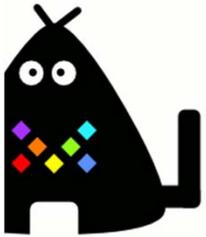


ミュージアムの課題:リストがない！

2011年3月18日時点での安否確認情報(最大北海道～中部)

- 日本博物館協会 57
- 全国美術館会議(第2報) 114
- 美術館連絡会議 78
- 全国科学博物館協議会加盟館 94
- 天文施設安否確認シート 360
- 日本プラネタリウム協議会 96
- 日本動物園水族館協会 32
- 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 96
- 全国文学館協議会 65

saveMLAK



→被災地のミュージアムリストがほしい！！！！

saveMLAK: Mの現在と今後

現在: 被災地を中心に

- savemuseum (Twitter、メール、口コミ情報)
- 天文施設安否確認シート 渡部義弥氏(大阪市立科学館)
- ミュージアム震災被害状況・予測一覧(青森・岩手・宮城・福島・茨城)木下達文氏(京都橘大学・准教授)

saveMALK内 M掲載数825件

今後

- インターネット・ミュージアムより(北海道～中部)4867件
- 学芸員より寺社仏閣リスト約550件
- M関連協会の安否情報の集約希望(協力・連携)
→被災地での現地調査: 被災施設の負担軽減、MLAK情報集約、共通調査票

その他

- 埋蔵文化センター(埋蔵文化遺産)・・・文化財レスキュー
- パブリックアート など

→これらの情報を今後どう活用するか？

saveMLAK



saveMLAKのとまどいと可能性

- MLAKの文化の違い

例:美術館は被災情報の公開が難しい
→説明をすることで、互いを知るチャンス

- M内での文化の違い

例:「博物館」か「博物館・美術館」か
博物館・美術館の文化財・美術品と動物園・水族館など
→LAKがいることで議論がタコツボ化しない

- 被災地におけるMLAK連携のサポート

- saveMLAK(の情報)を、どう活用するか

- 行政、民間企業、関連学協会とのゆるやかなネットワーク
それぞれの強みを活かした被災地への支援活動

saveMLAK



以上

思い出を守れ 富士フィルム 写真の洗い方伝授



ボランティアの大塚敦子さんに写真の扱い方を教える富士フィルムの前嶋邦男さん(右)＝29日、宮城県南三陸町

津波にのまれ、汚れてしまった思い出の写真。その洗い方を教えるボランティア活動に、富士フィルムが本格的に乗り出した。夏に向け、気温が上昇して劣化が早まるこれから正念場だからだ。29日も、社員が休日返上で宮城県南三陸町を訪れた。南三陸町歌津地区にあるボランティア団体「RQ市民災害救援センター」の支援拠点。「写真の表面がはがれないように。慎重に」。指導役の富士フィルムの前嶋邦男さん(55)はそう言って、アルバムのビニールカバーが張り付いた写真をぬるま湯につけ、カバーをそっとめくった。ビニールだけがきれいにむけ、周囲のボランティアから歓声がわいた。

指導を受けたボランティアの大塚敦子さん(51)は一扱いの方が分からなかったもので、とても参考になった」と喜ぶ。洗った写真は展示し、被災者に探しに来てもらう。

同社は4月下旬から、被災地の要望に応じて岩手、宮城、福島3県の約30カ所写真の洗い方を教えてきた。しかし、これから気温が上がると、写真表面のセラチン質を食べるバクテリアの繁殖が早まる。

そこで今月下旬からは、被災地の自治体や避難所に汚れた写真の有無を同社から問い合わせ、週末に社員を送り込むことにした。前嶋さんは「一枚でも多く持ち主に返したい」。問い合わせは同社の相談窓口

(0120・166・557)。(牧内昇平)

地域の記憶を守り、残す

震災復興とMLA－地域資料

2011.05.30 二つの記事から

仙台箆筒 思い出よみがえれ

職人、修理で大忙し



被災した家から持ち出された仙台箆筒の状態を見る職人＝25日、仙台市青葉区、小林裕幸撮影 2011. 5. 30 朝日(4)

江戸時代から続く仙台市の伝統工芸品「仙台箆筒」が、次々と修理に持ち込まれている。津波で引き出しが開かなくなり、宝飾品やアルバムを被災者が取り出せなくなったからだ。思い出が詰まった家具を生き返す

出が詰まった家具を生き返す。出が詰まると、職人は大忙しだ。仙台市青葉区の工芸店「長谷部漆工」。泥に汚れた箆筒がいくつも並んでいる。社長の長谷部嘉勝さん

が背板をはがし、泥や砂が入り込んだ引き出しをはずすと、中から着物や帯が現れた。「ネックレスや親から受け継いだ着物など、貴重な品をしまっているお客さんが多いんです」

仙台箆筒は、江戸時代末期の仙台藩で武士の刀や羽織を取めるために作られ、今も婚礼家具などとして重宝される。ケヤキやクリを素材に竜や唐獅子、牡丹をかたどった飾り金具が特徴で、高級品になると500万円以上する。

工芸店には東日本大震災の8日後から修理依頼が寄せられ、約40件に達した。引き出しや背板、枠に分解し、真水で丁寧に洗ひ、ヘドロで臭いがひどければぬるま湯で落とす。1カ月陰干しして板のゆがみなどをチェック。修理が必要な部分をカンナで削り、漆を塗り直す。

職人の高齢化や後継者不足で、修理を待つ箆筒が増えている。「お客様の手元に返せるのは早くても月末。すべて終えるには年内いっぱいかかる」という。

それでも、熟練の手にかかれは新品同様によみがえり、100年は使えるという。「思い出が詰まった大切な家具。これからも大事に使ってほしい」と長谷部さん。忙しい日々が続く。(平間真太郎)

地域資料とMLA

長谷川伸〔新潟市歴史博物館〕.

現場レベルで考えるMLA連携の課題－全国歴史資料保存利用連絡協議会
関東部会総会講演

根本彰氏「地域資料とは何か－国立国会図書館調査に基づいて」参加記
ネットワーク資料保存. 88,2008, 88, p.6.

「地域資料の収集・保存・活用」とMLA連携が関わる課題として、

①蔵書(所蔵)資料としての地域資料情報のネットワーク

②地域資料の科学的な保存管理

③レファレンス技術・知識の共有・連携を提唱し、

「それぞれの専門知識を土台に、守備範囲を補いながら組織的に連携する」
ことが、MLA連携の要諦であることを指摘。

新井浩文〔埼玉県立文書館〕

平成22年度(第96回)全国図書館大会への招待: 第9分科会〔資料保存〕:

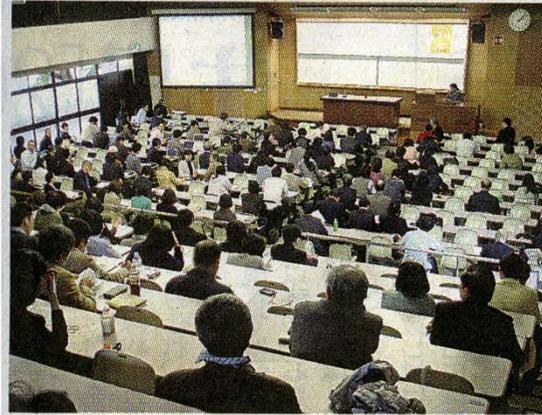
地域資料をめぐる図書館とアーカイブズ: その現状と未来

図書館雑誌. 104(8), 2010, p. 489.

日経新聞
〈文化〉
2011.05.14

松岡資明 編集委員

伝統行事やアルバム、津波映像…



「saveMLAK」の緊急報告会にはネット中継含め 500人近くが参加した（東京・目白の学習院大学）

被災地の記憶 デジタル保存

し、沿岸部100カ所程「速できる」と話す。復興に立ち上がる被災者
度を選び、復興過程を長「フルブライト・ジャパ」たちを長期にわたって支

後世への伝達 今後の課題に

文化を知り、地場産業は
じめ多分野の人たちとの
連携が重要と分かった」
(ジョーンズ氏)という。
震災前の「過去」、そ
して「現在」、復興を構
想した「未来」の地図を
それぞれ描き、外国人を
含めて様々な人が多様な
情報や記録を提供し、復
興への道筋を見いだす。
「海外に伝え、参加して
もらうことも大事」とジ
ョーンズ氏は指摘する。
いづれも地域や国境、
組織を超えて情報を共有
できるデジタルの特性を
生かした。博物館、図書
館、文書館、公民館の被
災・救援情報サイト「s
aveMLAK」を見れ
ば、7000を超す施設
の現況がわかる。
デジタルでの情報収集

「徹底的に記録」

情報のデジタル化によ
って異分野同士の垣根も
低くなった。その一例が
博物館、図書館、文書館
の連携(MLA連携)だ。
4月下旬に開かれた会
合で、長尾真国立国会図
書館長、青柳正規国立美
術館理事長、高山正也国

交遊抄

まだ二十代
後半の頃、螢
雪次朗さんと
知りあった。
今や演技派と
して、映画やテレビで活
躍されている役者さんで
ある。当時の僕はコピー
ライターとして原稿を書
き飛ばし、自身の筆の荒
れを棚にあげ、も
っと別の面白い創
師

『敗北を抱きしめて』 著者 ジョン・ダワー

「個人の人生でもそうですが、国や社会の歴史においても、突然の事故や災害で、何が重要なことなのか気づく瞬間があります。すべてを新しい方法で、創造的な方法で考え直すことができるスペースが生まれるのです。関東大震災、敗戦といった歴史的瞬間は、こうしたスペースを広げました。そしていま、それが再び起きています。しかし、もたもたしているうちに、スペースはやがて閉じてしまうのです。既得権益を守るために、スペースをコントロールしようとする勢力もあるでしょう。結果がどうなるかは分かりませんが、歴史の節目だということをしっかり考えてほしいと思います」

スペース

- 「あらたなMLA連携」のフィールド
- 地域資料からの再興を

インタビュー

歴史的危機を超えて

2011.04.29 朝日新聞

『図書』2011.6号「こぼればなし」より

特別報告

「3・11から3か月—MLAの被災と復興—」

アート・ドキュメンテーション学会 2011年度年次大会

2011年6月11日(土) 東京国立博物館 平成館大講堂
13:30-14:30(およそ1時間)

文化財レスキューの現状と課題

井上洋一(東京国立博物館 企画課長)

文化財レスキュー事業への支援要請

栗原祐司(文化庁美術学芸課長)

東日本大震災におけるMLA被災情報集約と救援活動～
saveMLAK活動からの報告～

山村真紀(ミュージアム・サービス研究所)